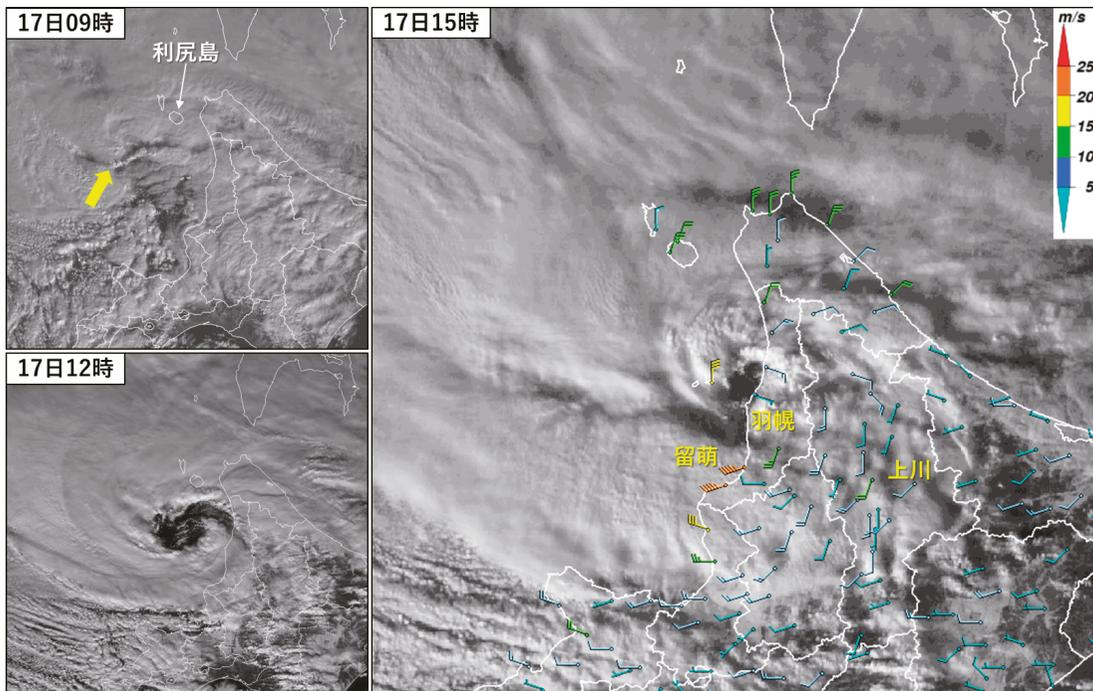


今月のひまわり画像—2023年12月

急速に雲渦が明瞭になり発達したポーラーロウ



第1図 2023年12月17日09時（日本時間）、12時、15時の北海道付近の可視画像で、15時はアメダスの風を重ね合わせた図。09時の矢印については本文参照、短い矢羽根は5 kt（1 kt \approx 0.51m/s）、矢羽根の色は凡例参照。

第1図は2023年12月17日09時（日本時間）、12時、15時の北海道付近の可視画像である。冬型の気圧配置の中、09時頃から利尻島の南西海上（同図の矢印付近）で低気圧性循環が顕在化し、12時には明瞭な雲渦となった。この雲渦は13時過ぎから15時過ぎにかけてゆっくりと羽幌付近を通過し（第2図）、その後東南東進して19時頃上川付近を通過後は不明瞭となった。同日09時の500hPa高層天気図（図略）では、沿海州に -42°C 以下の寒冷渦があり、当日の利尻島の南の海面水温は 10°C 前後と平年より 1.5°C 程度高く、大気の状態が不安定になっていたことから、この雲渦は寒冷渦の接近によって発生したポーラーロウと考えられる。

この雲渦の南側に位置していた留萌では、17日15時16分に最大風速が西南西の風 25.8m/s を観測し、12月としては1943年の統計開始以来8位、最大瞬間風速は同日15時14分に西南西の風 36.0m/s となり、12月としては1957年の統計開始以来1位（通年5位）となる記



第2図 17日09～19時の羽幌における海面気圧、前1分間最大瞬間風速の時系列図。

録的な暴風となった。また、雲渦の通過後、発達した雪雲が流入し続けた留萌では、18日の降雪の深さ日合計が 59cm に達し、通年で1953年の統計開始以来2位タイとなる記録的な大雪となった。

（気象庁大気海洋部予報課 原 基）